



### ◆謹賀新年◆

東和通訳センター センター長 中牟田 和彦

毎年のことではあります但し医療従事者の皆様方におかれましては、この年末年始も日時関係なく現場でのご対応をされておりましたこと深く感謝を申し上げます。弊社のオンライン医療通訳も外国人患者様ご来院に際しては、皆様方のサポートとしてお役に立てたのであれば嬉しく存じます。外国人の訪日、在留者の数も確実に増加傾向にあります。必要とされる安心で安全な医療通訳のご提供に本年もMedi-Wayをどうぞよろしくお願ひいたします。

## 医療の現場アラカルト - Vol.4

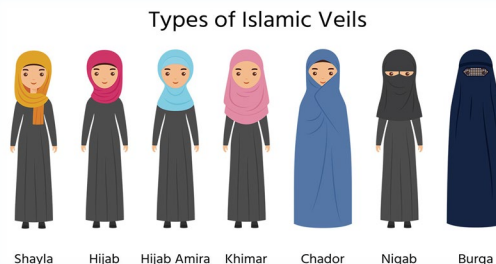
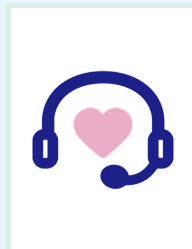
英語担当 Nさん

「I'm Muslim.」とおっしゃる方が日本の病院を受診するケースが増えてきました。英語通訳者は世界中の様々な国籍の方の通訳に関わりますが、イスラム教が世界中で広く信仰されていることを実感します。

入院の際に、豚肉やアルコールは禁止、豚のだし汁や豚由来の薬品、みりんを使った料理もダメ、中には、鶏肉でも「豚が含まれた餌を食べていないか?」と質問される方もおられ、病院側が出来る限りの対応をと苦慮されている場面に時々遭遇します。

また通訳をしていて気付くのが、ムスリム女性の服装の違いです。目以外の全身をすっぽりと覆う黒のブルカやニカブから、髪と首だけを軽く覆い、顔全体は出したスカーフスタイルのヒジャブまで、その見た目は同じムスリム女性でも様々です。そもそもイスラム教の聖典コーランには「両手と顔以外の美しい部分を隠せ」ということだけで、目しか見せてはいけないとか服装の色は黒指定というようなルールは書かれていないそうです。宗派、地域、出身地の文化等によって「厳格派」と「穏健派」があり、それぞれで異なった解釈がされているとのこと。

近い将来イスラム教徒の数がキリスト教徒の数を上回るとも言われています。宗教に関して言えば、例えば輸血を禁じるエホバの証人の信者さんは医療現場での配慮が必要です。今後もインバウンド、移民、医療ツーリズムの受け入れが不可欠な中、世界の宗教に対して関心と理解を深めていく必要性を通訳を通して感じています。



## イスラム教徒におすすめのコンパスアプリ

今月、医療現場のムスリムについて紹介してくれた英語通訳者からの情報です。患者さんの中には「毎日5回、メッカの方角に向かってお祈りする場所を病院内に確保してほしい」と頼む方もおられるとのこと、そんなときの強い見方がコンパスアプリ「キブラコンパス」です。このアプリは、メッカの方角を色で示してくれる方位磁石のようなもので、方角が一致すると茶色一色になり、違う方向を向くと黄色く変化して教えてくれるそうです。

海外のホテルに泊まると、天井に大きな矢印があつたりするのを見たことはありませんか。今はアプリを使って、どこにいてもメッカの神殿が拝めるんですね。



## 「魔除け」

新しい年、2025年が明けました。今年は阪神淡路大震災から30年、去年のお正月の能登半島地震もまだ記憶に新しいですね。災害は避けようがないとは言え、お正月の初詣に「厄除け」として破魔矢やお札を授かった方も多いと思います。

ペルー出身のスペイン語通訳者が、幼い頃の「魔除け」の話をお聞かせしてくれました。お母さんが生卵を手に持ち、子どもの頭から足元まで触れていき、悪を外に出すというお祓いを行うそうです。子どもがあまりにも夜泣きをしたり、ぐずったりして誰かにじっと見られた時(相手の目力が強すぎた時)に行うペルーの儀式のようなもので、その卵をコップに割ってみると、はっきりと目の形が出ることもあるらしいです! 子ども心にもちょっと怖いなと思い、目を付けられないようにするお守りのような赤いミサンガを手首にしていたそうです。

魔除けに「目」を使うのは、たとえばトルコに伝わるナザール・ボンジュウという目玉の形をした青いガラス製のお守りが有名ですね。目玉の形に意味があり、人の目、特に嫉妬の視線から守ってくれるそうです。常に神の目に見守られているという安心感、ぜひあやかってこの一年を無事に過ごしたいものです。

